

第**57**期 期末報告書

2018年4月1日－2019年3月31日



ケルは、先端機器へ 価値を広げています

コネクタの専門メーカーとして、創業以来豊富な実績を積み重ねてまいりました

高品質かつ高機能な製品が要求されるエレクトロニクス市場のトレンドを見据え、またお客様との対話を重視することで、幅広いニーズに対しオリジナリティあふれるオンリーワンの製品を提供しています。

独自の研究開発によって蓄積した技術力で、世界のコネクタメーカーに勝るとも劣らない製品を社会へ創出し続けていきます。

製品カテゴリー

コネクタ

小型化、高密度化、高速伝送対応等を生かした開発コンセプトで、充実したバリエーションと多彩なシリーズを展開しています。



ハーネス

フラットケーブル、丸ケーブル、ディスクリットケーブルなど、様々なケーブルを使用したハーネスの開発を行っています。



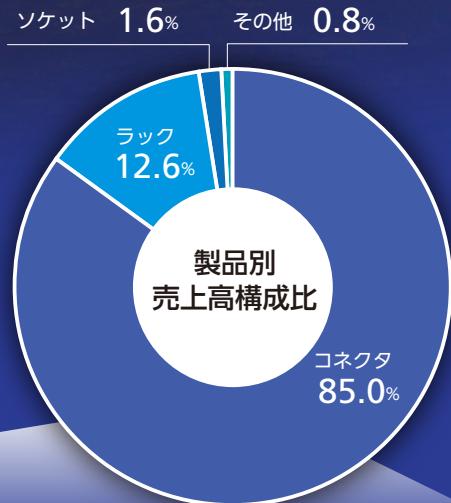
ラック

オリジナルラックシステムの開発に対応しており、様々なオプションユニット、アクセサリを組み合わせたシステムの提案を行っています。



その他

光アダプタやASSY治具(圧接、圧着等)を製造しています。また、コネクタの抜き治具等の開発も行っています。



皆様の身近なところで活躍するケル

シーン別製品紹介: オフィス



働きやすいオフィス環境・働き方改革を陰で支えています！

複写機・複合機

TMCシリーズ 極細同軸ケーブル用 コネクタ

高速差動伝送に対応しており、事務用機器などの機器内配線に適しております。0.5mmピッチと狭ピッチであり、接触信頼性にも優れた製品です。



エレベーター、自動ドア

特注ラック

コネクタ、ハーネス、ボードアッセンブリ、ラックシステムなど、個々のインターフェースに関連する製品の設計・開発・評価・製造を行っています。



8800シリーズ

ハーフピッチコネクタ

ハーフピッチコネクタにおいて確固たる信頼と実績を誇る8800シリーズ。幅広い用途をカバーすべく、豊富なバリエーション、多彩なシリーズ展開を行っています。



防災・遠方監視機器、ビル管理

DYシリーズ

フローティングコネクタ

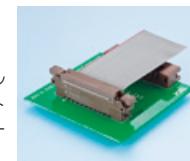
0.5mmピッチと狭ピッチでありながら、フローティング量はXY方向に±0.5mmを確保、機器の小型化に貢献することができます。有効嵌合長1.25mmを確保、安定した接触を誇る製品です。



8925Eシリーズ

ハーフピッチコネクタ

ハーフピッチ低背タイプの基板対ケーブル対応コネクタ。0.635mmピッチのフラットケーブルを1枚使用したタイプのため、デージーチェーン(数珠つなぎ)が可能です。



トップメッセージ



工業機器市場、遊技機器市場向け製品売上の落ち込みにより減収減益となりました。

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。第57期（2018年4月1日から2019年3月31日まで）期末報告書をお届けするにあたり、日頃の皆様のご支援に対し心からお礼申し上げます。当社グループは、市場および商品の開発を積極的に行い、設備投資効率、生産性を向上し収益力を高め、海外展開・グローバル化への対応力を向上させるよう事業を展開してまいります。株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 **土居 悦郎**

当期の事業環境について

国内経済は、企業収益の改善に伴い、企業の設備投資が増加し、個人消費も雇用・所得環境が改善する中で持ち直し、緩やかな回復基調が継続いたしました。海外経済は、米国、欧州の景気は回復傾向が続きましたが、中国の景気は緩やかに減速し、米国、中国の通商問題の動向および影響、英国のEU離脱問題等により、景気の先行きは不透明な状況で推移いたしました。エレクトロニクス業界は、ハイブリッド車、電気自動車の販売が堅調に推移したことによる車載向けの需要増や産業機器等を中心にAI・IoTの活用に向けた企業の設備投資は増加しましたが、スマートフォン等の携帯用端末向けおよび民生用向け半導体の在庫調整等

もあり、期後半にかけて業界全体に減速感が強まりました。

当期の運営方針および業績について

今年度は、基本方針を「成長ステージへ挑戦 ～更なる価値創造に向けて～」 1. 確実な成長を遂げられる企業体質を構築する。2. あらゆる可能性を切り拓いて各分野／領域を拡大する。」とし、運営方針である「1. コネクタ・ハーネス・ラックの3事業を継続する。2. 新製品売上高を倍増させる開拓開発活動を行う。3. 海外市場を強化拡大する（アジア、欧州市場の開拓）。4. 車載市場を強化開拓する（新顧客／新製品／新分野に注力）。5. 工業・車載・遊技・画像・医療機器を注力

市場とする。」を推進し、安定した成長を実現し、更なる価値創造に向けた活動を続けてまいりました。また、高速・大容量通信時代に対応した高速伝送対応コネクタや防水性が求められる様々な場所で使用可能なIP67対応防水コネクタ等を開発し販売するなど、市場・顧客のニーズに応える製品を提供してまいりました。

コネクタの売上高は、監視カメラをはじめとする画像機器向け、電子応用医療機器向けの極細同軸ケーブル用コネクタ、車載機器向けフローティングコネクタ、バンクマシン・ATM向けドロワーコネクタは受注が好調に推移しましたが、FA・制御装置・半導体製造装置等の工業機器向け、遊技機器向けの受注が減少したことにより86億54百万円（前連結会計年度比2.2%減少）となりました。

ラックの売上高は、半導体製造装置・制御装置等の特注ラック等の受注は減少しましたが、電力関連向け、CT・MRI等の電子応用医療機器向け特注ラック等の受注が増加したことにより12億83百万円（同5.1%増加）となりました。

ソケットの売上高は、遊技機器向けの受注が減少したことにより1億63百万円（同24.8%減少）となりました。

その他の売上高は84百万円（同10.3%減少）となりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は101億85百万円（同1.9%減少）となりました。

利益面につきましては、経常利益8億81百万円（同8.4%減少）、親会社株主に帰属する当期純利益5億86百万円（同6.3%減少）となりました。

次期の運営方針および業績見通しについて

エレクトロニクス業界は、自動車市場における電装化・電動化の進展により、高機能製品に対する需要拡大が期待されているものの、スマートフォン等の携帯端末市場はおおむね横ばいか微減に転じ、工業機器市場では米中貿易摩擦等により需給バランスも不透明な状況が続いていくものと予測されます。

当社グループは、このような状況の中、更なる生産性の向上によるコスト削減、設備投資の効率化や諸経費の抑制など業績向上に努めてまいります。

次期の業績見通しにつきましては、売上高102億円、営業利益7億97百万円、経常利益8億22百万円、親会社株主に帰属する当期純利益5億42百万円を見込んでおります。

なお、上記の業績予想の前提となる為替レートにつきましては、1米ドル＝108円、1ユーロ＝125円を想定しております。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

株主還元について

当社の利益配分の基本方針は、株主の皆様への利益還元を重視し安定的な配当の維持に努めることに加え、連結業績に応じた配当を行うことを基本とし、連結配当性向は40%以上を目標といたします。

当期の期末配当金につきましては2019年5月10日開催の取締役会において1株当たり20円と決定させていただきました。

なお、2018年12月に実施した中間配当金1株当たり19円とあわせて、年間配当金は1株当たり39円となります。

財務ハイライト

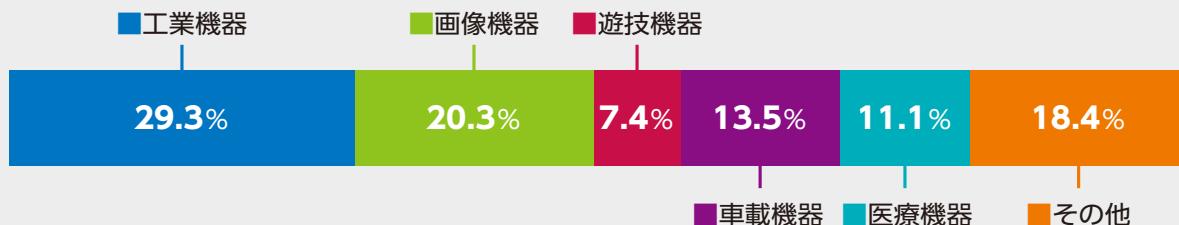


※「[税効果会計に係る会計基準]の一部改正」(企業会計基準第28号平成30年2月16日)等を当連結会計年度の期首から適用しており、2018年3月期については、遡及適用後の数値を記載しております。

※2016年10月1日付で普通株式2株を1株とする株式併合を実施しております。

市場別の状況

【売上高構成比】



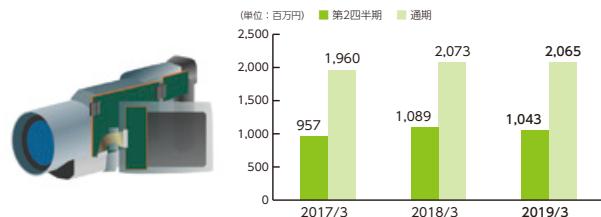
工業機器 ◆制御装置◆半導体製造装置◆車両関連など



売上高 **29億88百万円** 前連結会計年度比 **6.7%減**

産業機器向けコネクタおよび電力関連向けラックの売上は増加しましたが、制御装置、半導体製造装置向けコネクタの売上が減少したことにより29億88百万円（前連結会計年度比6.7%減）となりました。

画像機器 ◆デジタルカメラ◆ビデオ◆監視カメラなど



売上高 **20億65百万円** 前連結会計年度比 **0.4%減**

監視カメラメーカー向け極細同軸ケーブル用コネクタが堅調に推移しましたが、デジタルカメラ向けフローティングコネクタ等の売上が減少したことにより20億65百万円（同0.4%減）となりました。

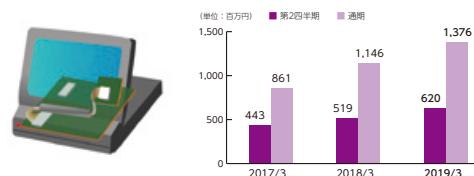
遊技機器 ◆パチンコ◆パチスロなど



売上高 **7億51百万円** 前連結会計年度比 **24.1%減**

遊技市場の低迷が続いており、新機種の投入抑制やリユース製品の採用などもあり、パチンコ、パチスロ向けコネクタの売上が減少したことにより7億51百万円（同24.1%減）となりました。

車載機器 ◆カーナビ◆IT S 関連◆レーダー装置など



売上高 **13億76百万円** 前連結会計年度比 **20.1%増**

国内外メーカーのカーナビ向けフローティングコネクタの売上が増加したことにより13億76百万円（同20.1%増）となりました。海外での採用拡大に向け取り組みを強化しております。

医療機器 ◆超音波診断装置◆内視鏡◆MRI など



売上高 **11億32百万円** 前連結会計年度比 **9.4%増**

CT・MRI等の医療機器向けコネクタおよびラックの売上が増加したことにより11億32百万円（同9.4%増）となりました。検査機から医療器まで幅広く採用されるよう活動を継続しております。

その他 ◆複写機など



売上高 **18億73百万円** 前連結会計年度比 **3.1%減**

電子応用装置向けコネクタ等の売上は増加しましたが、通信機器向けコネクタおよびラック等の売上が減少したことにより、売上高は18億73百万円（同3.1%減）となりました。

経営ビジョン
(目指す方向)

コネクタメーカーとして、
世界に貢献できる企業になる。

経営理念

社員の物心両面の幸せを追求するとともに、
企業活動を通じて社会の発展に貢献する。

経営基本方針

- オープンで、フェアな企業活動を基本として、
信頼される企業を目指す。
- 最先端技術の研究と開発に努め、お客様のご要望に
お応えする魅力ある商品を提供する。
- 個人の創造力とチームワークの強みを
最大限に高める企業風土をつくる。
- 効率的な経営を通じて、
長期安定的な成長と、共存共栄を実現する。

中期戦略

基本方針

商品群を増強する

海外ビジネスを
強化／拡大する

収益力を強化する

生産性向上による
収益力の改善

新製品増強・海外ビジネス強化に
向けた組織／体制にする

サプライチェーンの改善
(販売／生産管理システムのスマート化)
を進める

次世代人材を育成する

製造コスト、販売管理コストを下げ
収益性の改善を図る

経営資源(人材・設備・資金)の
効率・生産性を高める

IATF/ISOをベースに
品質管理体制の強化を図る

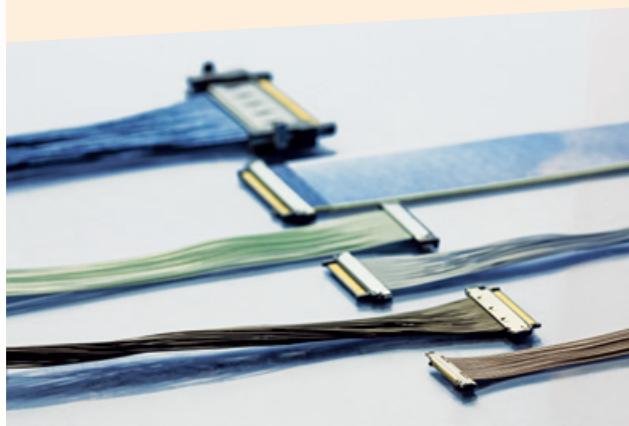
成長戦略

- フローティング・圧着・高速伝送用コネクタを強化する
- 欧州・中国・北米における事業を強化する
- 車載機器市場を強化する
- 5G・IoT周辺機器(情報・通信・センサー等)の新市場開拓を行う



事業戦略

- コネクタ(ハーネス含む)事業の底上げを推進する
- 機器事業において付加価値ビジネスへの転換を推進する
- 欧州・中国・北米の販売体制を強化する



ホームページのご案内

<https://www.kel.jp>

最新のニュースや企業情報、製品情報など、様々な情報をご覧いただけます。



連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	前期末 (2018年3月31日現在)	当期末 (2019年3月31日現在)
<資産の部>		
流動資産	8,534,202	8,470,648
固定資産	6,504,041	6,312,131
有形固定資産	4,547,144	4,500,847
無形固定資産	92,464	75,047
投資その他の資産	1,864,432	1,736,236
資産合計	15,038,244	14,782,779
<負債の部>		
流動負債	2,765,893	2,723,752
固定負債	736,592	471,785 ※1
負債合計	3,502,486	3,195,537
<純資産の部>		
株主資本	11,151,539	11,454,300
その他の包括利益累計額	384,217	132,940
純資産合計	11,535,757	11,587,241
負債純資産合計	15,038,244	14,782,779

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	前期 (2017年4月1日~ 2018年3月31日)	当期 (2018年4月1日~ 2019年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,207,668	1,708,114
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 980,355	△ 982,636
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 426,878	△ 424,135
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 441	△ 5,932
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 200,006	295,409
現金及び現金同等物の期首残高	3,272,357	3,072,350
現金及び現金同等物の期末残高	3,072,350	3,367,759

連結損益計算書

(単位:千円)

科目	前期 (2017年4月1日~ 2018年3月31日)	当期 (2018年4月1日~ 2019年3月31日)
売上高	10,379,901	10,185,580
売上原価	7,598,497	7,567,891
売上総利益	2,781,404	2,617,688
販売費及び一般管理費	1,762,036	1,826,321
営業利益	1,019,368	791,367
営業外収益	34,855	99,653 ※2
営業外費用	92,144	9,586 ※3
経常利益	962,079	881,433
特別利益	6,550	5
特別損失	27,886	9,997
税金等調整前当期純利益	940,742	871,441
法人税、住民税及び事業税	308,906	278,424
法人税等調整額	6,524	6,855
法人税等合計	315,430	285,280
当期純利益	625,312	586,161
親会社株主に帰属する当期純利益	625,312	586,161

POINT

- ※1 長期借入金が減少しました。
- ※2 為替差益が増加しました。
- ※3 為替差損が減少しました。

株式数および株主数

発行可能株式総数	30,000,000株
発行済株式の総数	7,743,000株
株主数	3,101名

会社の概要・株主メモ

(2019年3月31日現在)

会社概要

商号	ケル株式会社
英文社名	KEL CORPORATION
設立	1962年(昭和37年)7月23日
資本金	16億1,700万円
従業員	272名
事業目的	電気機械器具、精密機械器具、合成樹脂製品、化学製品、各種金属工業製品および雑貨類の製造、売買ならびに輸出入、その他附帯業務
ホームページ	https://www.kel.jp

役員 (2019年6月26日現在)

代表取締役社長	土居悦郎
常務取締役	三國武幸
取締役	原俊彦
取締役	春日明
社外取締役 (常勤監査等委員)	太田三男
取締役 (監査等委員)	白倉勝
社外取締役 (監査等委員)	泉澤大介

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人 特別口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話(通話料無料)0120-232-711
同郵送先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
単元株式数	100株
公告の方法	電子公告の方法により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 (当社のホームページ https://www.kel.jp に掲載しています。)
上場証券取引所	東京証券取引所 ジャスダック市場

ネットワーク

本社	東京都多摩市永山六丁目17番地7 〒206-0025 TEL: 042-374-5810	
事業所	山梨事業所 長野事業所 南アルプス事業所	山梨県西八代郡市川三郷町 長野県北安曇郡池田町 山梨県南アルプス市
営業所	宇都宮営業所 水戸営業所 名古屋営業所 大阪営業所	栃木県宇都宮市 茨城県ひたちなか市 愛知県名古屋市中区 大阪府大阪市淀川区
駐在員事務所	北米駐在員事務所 米国カリフォルニア州	
海外子会社	旺昌電子股份有限公司 台湾 新北市 科陸電子貿易(上海)有限公司 中国 上海市 科陸電子(香港)有限公司 中国 香港 KEL Europe GmbH ドイツ デュッセルドルフ市	



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。